

令和2年度 自己評価報告書

令和3年3月
岐阜県立多治見看護専門学校

1 本校の概要・・・資料1

本校は、以下の教育理念の下、学生教育を実施している。

「生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う専門職業人を育成します。」

2 令和2年度 組織目標及び実績・・・資料2・3

(1) 教育環境の充実

- ・1年生の学習機の更新
- ・ICT教育に関する環境の整備
全教室でWi-Fiが使用できるよう工事が終了、県立の3学校(衛生専門学校、多治見看護専門学校、下呂看護専門学校)をTeamsで繋ぐことが可能となった。
タブレット48台、電子黒板(75型)1台、大型モニター(65型)2台を整備

(2) 優秀な学生の確保のための広報活動

- ・コロナ感染症蔓延のため、前年度より規模を縮小または中止せざるを得なかった。
- ・高校訪問は中止、県内の高校80校に入学案内を郵送
- ・オープンキャンパス中止、14組17名については個別での学校見学に対応
- ・1年生母校訪問9校、高校や業者が主催する進学ガイダンスの参加6ヵ所、中学校での講話1校

(3) 新カリキュラムの導入に向けての体制整備

- ・カリキュラム検討会議25回
- ・前年度明確にしたカリキュラムの課題と、どんな卒業生を育てたいのかを柱に、ディプロマポリシー、教育目標を決定し、具体的な科目設定及び実習内容の明確化をしている。

(4) 教員の教育活動の充実、看護実践能力の維持・向上

- ・キャリアラダーの継続
- ・コロナ感染症蔓延のため、リモートによる学会・研修会に参加し、伝達講習を実施
- ・コロナ感染症蔓延のため、実習病院・施設での短期研修は実施できず、次年度予定
- ・新人教員にプリセプター教員を中心に計画的な支援の実施

3 学校評価項目の達成及び取り組み状況

1) 学校経営

資料4

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none">・学校のビジョンと組織目標を策定し、その目標が教職員に理解されているか。・組織目標に対する評価を実施し、結果を教職員に周知し次年度の目標につなげているか。・学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知し外部にも公表している。評価結果をもとに改善計画を策定しているか。・管理職のリーダーシップのもと、係長又は教務主任が部署をまとめ問題解決に当たっているか。	4.0

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・組織目標は職員会議で周知し、全職員で連携しながら問題解決にあたることができた。
- ・**学校評価**を9月と2月の2回実施した。中間評価結果は職員会議で周知し、後期の学校運営に繋げ、2月の評価結果を次年度の学校運営目標に繋げた。また**学生の学校評価**、外部委員による学校評価を実施し、その結果を学校運営計画に繋げた。
- ・学校評価結果はホームページで公表した。また、教職員の自己評価だけでなく、学校関係者評価と学生による学校評価を引き続き実施した。

2) 学科運営

資料5～7

評 価 項 目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時に持つべき資質を教育目標に明示するとともに、卒業時の到達目標を分析している。 ・学習内容は教育理念・教育目標と一貫性があり時代の要請に応える内容になっているか。 ・授業計画(シラバス)が作成され教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしている。 ・効果的な授業運営を図るため適切に時間割を調整している。 ・授業内容や指導方法が学生レベルに合うように工夫・改善している。 ・学生の単位習得に向けた支援を実施しているか。 ・実習目標が達成されるように実習環境が整備されているか。 ・実習指導者と教員(実習指導教員)の役割を明確にし、お互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。 ・学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、評価について公平性・妥当性が保たれているか。 ・実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。 ・実習時のインシデント・アクシデント等を分析し学生指導に活かしているか。 ・学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めている。 	3. 8

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・卒業生と卒業時の3年生に**カリキュラム評価**を実施し卒業時の到達目標の分析を行った。
- ・授業計画(シラバス)は、シラバス委員会が中心となり、毎年教育課程の評価を行い、学生・講師が授業内容を理解し、活用しやすいように修正している。
- ・第5次のカリキュラム改正に向けて、カリキュラム検討委員会で、新カリキュラムの作成に取り組んでいる。
- ・授業内容や方法については、科目終了後に学生による**授業評価**を実施し、その結果も踏まえた上で、教員は**総括**を実施している。総括をもとに教務会で検討し、次年度の授業内容や指導方法の改善に繋げている。
- ・学生が単位習得できるように、例年は年度初めにはガイダンスで学年目標、一年間のスケジュールの確認をしている。しかし今年度はコロナ感染症により2か月間の休校となり、6月より授業を開始したが、過密なカリキュラムとなり、ガイダンス時間を十分確保することは困難であった。
- ・科目始めには科目目標と内容、評価について説明をしている。また、未修得単位のある学生については、随時、個別指導を実施し単位取得に向けた支援を密に実施している。
- ・主たる実習施設とは年間5回の**実習連絡会議**を計画したが、コロナ感染症蔓延のため、一堂に会しての会議の開催はできず、書面報告とした。各病棟・部署とは担当教員が個別で調整を密に行っている。その他41か所の実習施設とは、実習開始前と終了後の2回調整会議を実施(一部リモートでも実施)し、実習指導者と連携をとっている。しかし学生が効果的に学べる環境が整っていない病棟もあるた

め、整えるよう今後も調整していく。

- ・修了認定のための評価基準と方法については、シラバス・実習要綱への記載や一部別紙での公表を行っている。
- ・実習時のインシデント・アクシデントは、まずは第一報をするために所定の様式を作成し使用したことで、迅速な報告・共有につながっている。また、インシデント学習会を開催し学生指導に活かすことができた。引き続き年2回のインシデント学習会を計画していく。
- ・今年度3名の教員が授業参観を実施し、授業内容や方法の改善に繋げた。次年度は全教員が一回以上授業参観の実施ができるように計画していく。

3) 入学・卒業対策

資料8～13

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの応募者を確保することに努めているか。 ・国家試験の合格者が100%となるよう教職員一丸となって取り組んでいるか。 ・質の高い卒業生を多く輩出する為の努力を行っているか。 ・卒業生の支援を行っているか。 ・卒業生の県内就職率を高めるように努めているか。 	3.8

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・優秀な人材確保に関する事業として、1年生の**母校訪問**(9校)、高校や業者が主催する**進学ガイダンス**の参加(6ヵ所)を実施し、本校の魅力を伝えた。しかし、コロナ感染症蔓延のため、高校訪問、オープンキャンパスは中止し、**個別での学校見学**(17名)を行った。広報活動が十分できなかった影響か、県内の高校からの受験者数の減少がみられた。次年度はリモートによるオープンキャンパスの実施など、より効果的な広報活動の方法を検討していきたい。
- ・**入学生にアンケート**を実施し、それらの情報を募集の方法等に活かすことができた。
- ・入学案内に、アドミッションポリシー(本校の求める学生像)を記載し、機会あるごとにアドミッションポリシーを説明することで、本校が求める入学生の確保に努めている。
- ・国家試験合格に向けて、3年生は全教員による少人数担当制の指導を実施し、学習面だけでなく精神面での支援を行っている。今年はコロナ感染症のため、受験会場が直前まで発表されず、例年とは会場が変更になるなど、不安材料も多かったが、全員合格することができた。入学時の学力の低下は著明のため、1年次から支援をしていく方法を検討している。
- ・卒業生の**主な進路**は例年、県内の東濃及び中濃圏域の医療機関への就職が大部分を占め、とりわけ県立多治見病院への就職が、今年度は70%を超えている。
- ・卒業生の支援として、**卒業生交流会**(ホームカミングデイ)を8月に実施予定であったが、コロナ感染症蔓延のため、12月に延期したことで6名(18%)の参加に留まった。卒業生同士、また教員と語ることで、情報交換、リフレッシュの機会となっていた。
- ・県内就業に関しては、進学ガイダンスなど入学希望者に説明をしている。入学時のガイダンス、個別の就業相談時にも指導・助言を行った。就職試験が早くなっているため、1年次から長期休暇にはインターシップへの参加を呼びかける計画であったが、学校開始が2か月遅れた影響で、長期休暇を取ることができず、今年度は参加に至らなかった。12月には4施設の卒業生を迎えて、1年生に対して、**先輩と語る会**を開催し、進路について具体的に考える機会とした。
- ・3年生の希望者には模擬面接を行い、採用面接者の意図を理解し、的確に対応できる能力を養うように努めた。

4) 学生生活への支援

資料 14～17

評 価 項 目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。 ・経済的、精神的側面から学業の継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。 ・学生の身体的側面の健康確保に努めている。 ・サークル活動などの学生の自主的な活動を支援している。 	3. 7

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・**学生生活の実態**について調査を実施した。集計結果は学校評価委員会で共有し、結果を学生の生活・学習などの支援に活用している。
- ・担任・副担任を中心に学生面談・学生指導を行っている。また、実習に関しては実習調整者を中心に支援体制を整えている。必要時は保護者面談、保護者への電話連絡などで、学生の状況説明と支援要請を行った。
- ・学生の定期健康診断の結果を校医に報告し、要受診学生への指導と結果の把握に努めた。日々の学校生活では教員による学生の健康管理を行い、必要時は校医と連携し専門医への受診等を助言している。今年度はコロナ感染症対策として、学生、職員ともに1日4回の検温を実施し、毎朝健康観察シートと行動記録表を提出させチェックを行っている。
- ・小児感染症の予防接種は、抗体価の結果に基づき、計画的に接種するよう指導し、1年次にほぼ終了できている。
- ・心の不安定な学生が増えており、月1～2回専門の**カウンセラーによる相談日**を設け、今年度は延べ9名の学生が利用した。相談室を利用せず、自己にてメンタルクリニック等を受診している学生もあり、把握に努めている。
- ・経済的な問題を抱えている学生も一定数在籍していることから、日本学生支援機構等が運営する**奨学金**制度（給付・貸与）を積極的に紹介し、希望者に対しては申請書の作成支援や運営主体への推薦を行った。また国の高等教育修学支援制度に基づき、修学金の支援に加えて、5名に対して授業料や入学金の減免を行っている。更に今年度は日本学生支援機構による新型コロナウイルス感染症対策支援金事業として、2名に55,000円、3名に30,000円の交付を行った。
- ・成績優秀者と皆勤者については、卒業時に**表彰**を行った。
- ・茶華道部とスポーツ部のサークル活動が現在は休止状態のため、今後は学生の意向を確認しながら自発的な取組への支援をしていく。

5) 教職員の育成

資料 18～20

評 価 項 目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の抱えている課題をふまえた職場内研修を行っているか。 ・学会又は研修会に参加した成果を他の教員に還元する仕組みがあるか。 ・教員が計画的に臨床実務研修に参加できるように支援しているか。 ・教員の授業を他の教員が参観・講評できる体制を整えているか。 ・教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか 	3. 3

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・職員会議を活用し、セキュリティ対策などの職場内研修を行った。また**学会・研修に参加**した教員は、教務会で伝達講習を実施している。
- ・臨床実務研修については、コロナ感染症蔓延のため実施することができなかった。
- ・新人教員に対しては、プリセプター教員を決め計画的に支援を行った。毎月の評価を行い、教職員間で情報共有をしながら、全職員で育てていくよう支援をしている。

- ・昨年度から導入した**キャリアラダー**で、校長・教務主任と共に現在の立ち位置を確認し、各自目標を明確にすることができた。
- ・他校での授業参観はコロナ感染蔓延のため実施されなかったため、学内での**授業参観を3名**の教員が実施した。次年度に向けては全教員の授業参観の実施と、小グループによる授業研究委員会の立ち上げを計画している。

6) 管理運営・財政

評 価 項 目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・予算計画・年間行事計画を策定し適正な予算執行・進行管理を行っている。 ・学生や教職員等の人権・個人情報について十分な対策がなされているか、また、学生、教職員に対してそれらの徹底を図っているか。 ・災害などの非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。 ・学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。 	3. 9

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・年間計画に基づき、計画的に予算・事業執行を行っている。
- ・学校が保有する個人情報については、「岐阜県情報セキュリティ対策基準」に従い管理している。
- ・個人情報保護は、学生へ繰り返しの指導を行うとともに、実習の記録やメモ帳の管理については、詳細なルールを決め、それに従い管理している。現在問題となっているソーシャルメディア利用の注意点については、学校生活案内に明記し、年度初めのガイダンス、各実習前のオリエンテーション、解剖見学前のオリエンテーションなど、機会あるごとに指導を行っている。
- ・学生の防災意識を高めるよう、年度初めに防災訓練・防災に関する講話を計画したが、コロナ感染症蔓延のため、全校一斉で実施することができなかつたため、各学年でのシェイクアウト訓練、避難訓練、メールによる安否確認訓練を行った。教員に向けての防災マニュアル作成に至っていないため、次年度の課題とする。
- ・学生へのメールの一斉送信や個別の送受信の仕組みを整備することができたことで、コロナ禍でもスムーズに学生に情報伝達をすることができた。
- ・学生の意見・要望を聞くために提案箱の設置をしている。また、入学時アンケートの実施、さらに学生生活実態調査、学生による学校評価を実施した。学生の意見・要望については運営会議、学校評価委員会において対応を検討し、図書室の利用時間を18時まで延長時間を速やかに対応した。

7) 施設設備

評 価 項 目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障がい者の利用に配慮された構造になっている。 ・教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また、学生の自主的な学習の場が確保されているか。 ・学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。 ・図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。 ・実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い十分にその機能を果たしているか。 	2. 9

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・耐震基準は満たしているが、障がい者の利用ができるようにはなっていない。ユニバーサルデザインによるトイレの改修工事を希望したが実現できていない。引き続き希望をしていく。
- ・今年度は1年生の学習机も更新。ICT教育に関する環境の整備として、全教室でWi-Fiが使用可能、衛生専門学校・下呂看護専門学校とTeamsで繋ぐことが可能となった。さらにタブレット48台、電子黒板(75型)1台、大型モニター(65型)2台を整備した。
- ・設備については、トイレは数が少ない上に洋式便器は各階1か所しかないこと、教室の窓に網戸がついておらず、授業中に虫が入り授業が中断するなど不都合があり、学生からの改善要望も多い。
- ・教育目標達成に必要な備品の購入については、毎年計画的に実施してはいるが、多くの備品が老朽化や陳腐化が目立つなど、今の医療が学べる備品の整備が課題である。
- ・コロナ禍ではあるが、学生の学習環境が確保できるよう、多目的ホールや図書室については、椅子の数を半分に減らし開放した。図書室の蔵書が少ない、内容が古く必要とする物がなかなか無いという学生からの意見もあり、今年度は図書購入費を倍にして対応した。さらに新刊コーナーを開設し見やすい工夫を行った。また隣の県立多治見病院の職員図書館が学生・職員も利用できるよう依頼をし、許可をいただいた。
- ・講師控室が狭く三密の可能性が高くなることから、図書室の一角を講師控室に変更し使用した。

8) 社会貢献、地域活動

評 価 項 目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の存在を周知するためホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしている。 ・地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。 	3.0

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・ホームページ委員により、学校行事終了ごとに、情報の更新は行っているが、見やすい、興味を持てるようなホームページの充実が課題である。
- ・地域活動としては、毎年学生会主体の清掃ボランティアや、実習施設での夏祭りのボランティアなどに参加していたが、今年度はコロナ感染症蔓延のため実施できていない。教員は近隣中学での職業講話に参加した。
- ・今年度は学校祭についても中止となった。

4 総合的な評価

本年度に定めた組織目標は、本報告書に記載したとおり概ね実施できており、目標達成できていると評価する。また、評価項目の達成及び取り組み状況は、コロナ感染症蔓延のため、実施できなかったことも多い中で、できる方法を模索しながら実施したことで、昨年度より5カテゴリーは評点がアップした。また平均評点も0.2ポイントアップしていることから、適切に実施していると評価する。

— 以 上 —